

西洋史概説Ⅱ

科目ナンバリング HEA-102
選択必修 2単位

石川 敬史

1. 授業の概要(ねらい)

この授業は、西洋史を概観することを通して、「西洋とは何か」について、受講者各人が自分自身の識見を修養することを目的としています。私たちが身をおく、現代の国家システム、あるいは基本的人権のような法概念や、民主主義といった政治思想、今日の諸国家による外交システム、さらには大学制度といったものは、西洋の歴史的文脈から多分に偶然生まれたものでした。この授業では、「西洋という規範」がどのような歴史的経緯から形成されてきたのかを学修します。(※大学での学びを「学修」といいます)

高校までの世界史とは一味違う角度から、教養としての西洋史を学ぶ機会としてください。日本史に関心のある方にとっても、東洋史に関心のある方にとっても有益な視点が得られるでしょう。

西洋史は多くの場合、古代・中世・初期近代・近代と便宜上区分されるが、この西洋史概説Ⅱでは、初期近代から近現代までを射程とします。

2. 授業の到達目標

人間や社会のあり方を幅広く俯瞰的にみるための見識を獲得し、それを他者に説明できるようになる。
自分が読むべき自分で探し出せるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

二回の小テストによる評価20%

本授業最終日に行う論述式試験による評価80%

※小テストの日程については、授業の進行状況によって調整が必要となるため、授業内で指示します。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は特に指定せず、講義毎にレジュメ・資料を配布する。

その他、参照すべき文献は、授業で適宜紹介する。

参考文献

宇野重規 『西洋政治思想史』(2013年) 有斐閣

山下範久 『教養としての世界史の学び方』(2019年) 東洋経済新報社

5. 準備学修の内容

前の講義時に配布したレジュメ・資料の内容を確認しておく。

自分が何を理解し、何が理解できなかったのかを明らかにしておく。

授業で紹介した文献の該当箇所を読んでおく。

6. その他履修上の注意事項

高校までの世界史の授業とは大きく異なるので、まずは復習を中心に学修しておくことを勧めます。

質問は随時受付けるので、積極的な姿勢で授業に臨むことを願います。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
本講義の概要と意義、学修方法について詳細な説明を行う。
- 【第2回】 絶対王政成立の契機(1)
1.聖界秩序から世俗秩序へ
2.コンフェッションナリズムの時代
3.30年戦争からウエストファリア条約
- 【第3回】 絶対王政成立の契機(2)
1.ウエストファリア条約についての様々な見解
2.主権とは何か
3.絶対王政の諸相—フランス、イギリスを中心に
- 【第4回】 社会契約思想
1.イングランド内乱
2.ホッブズの政治思想
3.ロックの政治思想
- 【第5回】 絶対王政期と社会契約説のまとめ
小テスト(30分)
- 【第6回】 アメリカ革命(1)
1.ヨーロッパ人のアメリカ大陸への入植
2.イギリス領北アメリカ植民地の形成史
3.その他のアメリカ領植民地の諸相
- 【第7回】 アメリカ革命(1)
1.反英抵抗運動から革命へ
2.アメリカ独立宣言の政治思想史
3.アメリカ独立宣言の世界史
- 【第8回】 フランス革命(1)
1.ルソーの政治思想
2.旧体制のフランス社会
- 【第9回】 フランス革命(2)
1.フランス革命とフランス革命批判
2.保守主義思想の形成
- 【第10回】 アメリカ革命とフランス革命のまとめ
小テスト(30分)

- 【第11回】 19世紀の政治思想(2)
 - 1.社会主義思想
 - 2.マルクスの共産主義思想
- 【第12回】 二つの世界大戦
 - 1.第一次世界大戦
 - 2.第二次世界大戦
- 【第13回】 20世紀の社会思想(1)
 - 1.米ソ冷戦
 - 2.冷戦下の国際政治
- 【第14回】 20世紀の社会思想(2)
 - 1.デモクラシーを再考する
 - 2.20世紀はどこから始まりどこで終わったのか
- 【第15回】 授業の総括
試験(60分)